

速報「平成 30 年厳冬の旧大滝集落」

大滝会特別会員 鹿摩貞男
(万世大路研究会)

はじめに

2月16日(金)、厳冬の旧大滝集落に行って来たので報告する。数年前、初冬12月に訪れたことはあるけれども、厳冬の旧大滝集落は見たことがない。冬の大滝の厳しい暮らしを大滝会の方々からお聞きするにおよんで一度はその冬を体験してみたいとかねてより考えていた。しかし、なかなか訪れる機会がなかったけれども、今回たまたまテレビ局の取材に同行することとなり厳冬の旧大滝集落を目の当たりにしてきた。本稿では、写真を中心として報告するものである。

大滝集落と道路の変遷について

大滝集落とは、旧国道13号(万世大路)を福島市市街地から米沢に向かい20kmほどの地点にあった旧信夫郡中野村(現在福島市飯坂町中野)の一集落のことで現在廃村になっている。

(大滝集落の簡単な解説を「巻末参考資料-1」として巻末に添付しておいたので興味をもたれる向きにはご一読ください。)

さて、現在旧大滝集落へは、国道13号大滝橋の手前から右折し150mほどのところでその大滝橋をアンダーパスして行くことができる。この道路は、旧西川橋まで1.8kmほど続いていて、もちろんそれが旧国道13号(旧万世大路)であり、新国道開通後(S41.5.29)は福島市道長老沢線として認定されているものである。その区間は自動車交通が可能である(冬期除く)。

この区間内、旧葭沢橋手前の通称吉田饅頭屋(まんじゅうや)さん付近から旧宮内屋旅館(高野家、現在更地)まで、米沢の方へ向かって概ね1.0kmの範囲の中にかつて集落が存在したわけである。その集落の総称が大滝集落といわれるものである。この集落には三つの地域がある。福島側からいくと、吉田饅頭屋さん付近(現在空き地、資材置き場)から旧大滝橋までが「葭沢(小字名)」地区、大滝橋から胡桃橋までが「大滝(小字名)」地区、胡桃橋から旧西川橋までが「長老沢(小字名)」(通称胡桃平)地区である。

後で紹介していく集落の写真は特に断っていないけれども旧国道13号、現在の福島市道長老沢線である。万世大路(旧国道13号、現福島市道「長老沢線」)は幾多の変遷をたどっている。

(大滝集落内道路(万世大路)の変遷の概要について「巻末参考資料-2」として巻末に添付しておいたので興味をもたれる向きにはご一読ください。)

〈 厳冬の旧大滝集落写真帳 〉

葭沢地区

葭沢地区は、吉田饅頭屋さん付近(現在空き地、資材置き場)から旧大滝橋までである。

なお、国道13号大滝橋手前からの大滝集落入口付近の字名は「長老沢」となる。字長老沢は広範囲で、小川の北側に位置する集落終点側(旧西川橋)も字長老沢となる。



写真-1① 国道 13 号から大滝集落入口を望む。
この辺り積雪 90 cm。



写真-1② 国道 13 号大滝集落入口から望む
E13 大滝大橋(L=201m、H25.10 完)。
下は国道 13 号葭沢橋(L=49.4m 拡幅
H5 完)、福島側を望む。



写真-1③ 国道 13 号大滝集落入口から望む
E13 東北中央自動車道新大滝橋(L=113m、
H28.1 完)。



写真-1④ 大滝集落入口付近にて冬山装備。
背後の橋は現国道 13 号大滝橋。
積雪 90 cm ほど。



写真-1⑤ 現国道 13 号大滝橋(L=165m、H2 完)、
上は E13 東北中央自動車道新大滝橋。



写真-2① 葭沢地区、米沢側を望む。



写真-2② 旧吉田饅頭屋さん跡を望む。
奥左側家屋の背後は小川で対岸に
大滝鉾山坑道跡あり



写真-2③ 葭沢橋(3代目、L=22.4m、W=5.5m、
S53.3 完)下流左岸から望む。



参考写真-1 旧葭沢橋と山桜 H270429



写真-2④ 葭沢橋



写真-3① 葭沢地区。
葭沢橋右岸から米沢側を望む。



写真-3② 葭沢地区、米沢側を望む。

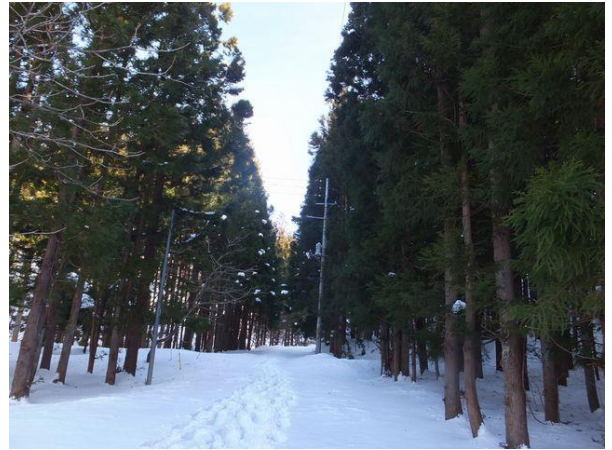


写真-3③ 葭沢地区の杉林。木炭倉庫跡付近から福島側を望む。



写真-3④ 木炭倉庫跡付近から米沢側(通称かど)を望む。



写真-3⑤ 木炭倉庫跡(建物残骸)

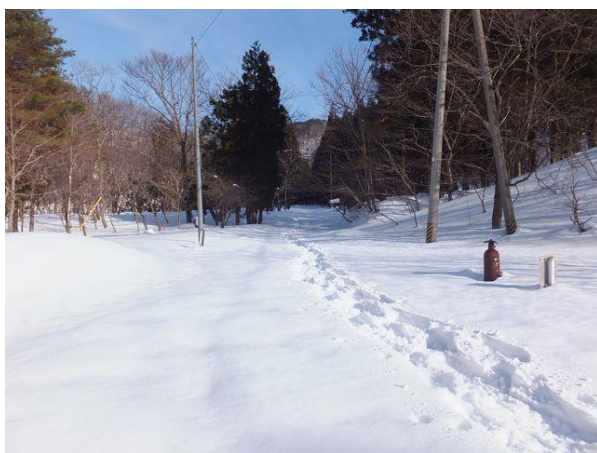


写真-3⑥ 赤岩道入口から福島側を望む。



写真-4① 赤岩道(左側)入口付近から通称かどを望む。



写真-4② かどから大滝橋を望む。

大滝地区

大滝地区は、旧大滝橋から胡桃橋までである。この区間には、大滝分校や山神神社が含まれている。旧大滝橋の福島側にはかつて奥羽本線赤岩駅に通ずる赤岩道（別名救済道）があった（現在、途中の古屋敷付近まで通行可）。この地区が大滝の中心地となるのかも知れない。



写真-5① 大滝地区、旧大滝橋(3代目、S40.10完)
L=10.5m、w=5.5m。米沢側を望む
(取材風景)。



参考写真-2 旧大滝橋 H280503



写真-5② 旧大滝橋、米沢側から福島側を
望む。上の坂道は赤岩道



写真-5③ 旧大滝橋上流側(右岸)に見られた
氷柱。



写真－6① 大滝地区、大滝橋左岸側から米沢側を望む。大きな建物(旧観光施設芝居小屋跡)の奥は大滝会事務局(旧ポンプ小屋跡)



写真－6② 大滝記念碑(大滝分校)入口付近から米沢側を望む。



写真－6③ 大滝地区、大滝記念碑入口付近から福島側を望む。



写真－6④ 大滝会事務局(旧ポンプ小屋跡)



写真－7① 大滝山神神社参道

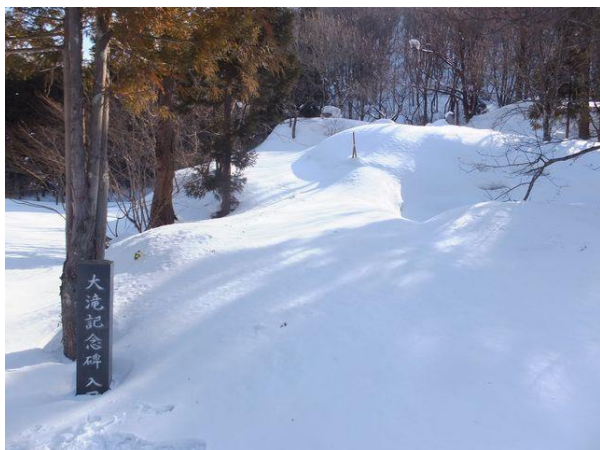


写真-7② 大滝記念碑(大滝分校)入口。



参考写真-3 大滝記念碑(旧大滝分校)入口
H281009



写真-7③ 雪に埋もれた「大滝記念碑」
(S54.10 建立)



写真-7④ 大滝分校跡、上は大滝山神社。



写真-7⑤ 雪に埋もれた大滝山神社。



写真-7⑥ 下の大滝分校跡。大滝記念碑付近から望む。



写真-7⑦ 下の大滝分校跡、
右上元の分校跡、旧国道から望む。



写真-8① いら沢橋(左側)と入イラ澤橋。
福島側から米沢側を望む。



写真-8② いら沢橋(3代目、S40.10完)
L=10.5m、w=5.5m。福島側から望む。



写真-8③ いら沢橋左岸(米沢)側から福島側を
望む。正面上は大滝山神社(大滝
分校跡)。



写真-8④ 入イラ澤橋(3代目、S9.7完)
L=3.1m、w=5.6m。福島側から望む。



写真-8⑤ 大滝地区、入イラ澤橋付近から胡桃橋
を望む。



写真－8⑥ 大滝地区、胡桃橋から入イラ澤橋を望む。
手前左側に親柱が僅かに見える。

長老沢(胡桃平)地区

ここで云う長老沢地区とは、胡桃橋から西川橋までのことで通称胡桃平と呼ばれている。「栗子新道画圖」(明治14年9月、米沢の絵師濱崎木麟^{はまざきもくりん}版画)によれば「胡桃平村」として3軒の家屋が描かれている。大滝集落発祥の地と云える場所である。

大滝集落の人家があったのは旧宮内屋(高野家)付近までである。明治10年頃、その宮内屋(現在更地)、東隣りの中屋旅館(渡辺家、家屋現存無人)、近くに西村屋(半田家、詳細不詳)がありその3軒から大滝集落の歴史が始まったと伝えられる(『わが大滝の記録』)。



写真－9① 胡桃橋((3代目、S11.3完)
L=15.3m、w=6.1m。胡桃橋右岸(福島)側
から米沢側を望む。



写真－9② 胡桃橋、左岸(米沢)側から福島側を
望む。



写真－9③ 胡桃橋から小川下流側を望む。



写真－9④ 長老沢(胡桃平)地区、
胡桃橋左岸(米沢)側から米沢側を
望む。



写真－9⑤ 長老沢(胡桃平)地区、
須田儀左エ門さん宅跡付近から米沢側を
望む。どこが道路か分からない。



写真－9⑥ 国道 13 号への取付道路。米沢側を望む。



写真－9⑦ 山岸さん宅跡付近から渡辺清治さん旧宅
を望む。



写真－9⑧ 紺野さん宅跡付近から須田さん宅跡
(福島側)を望む。



写真－10① 渡辺清治さん旧宅を福島側から望む。



写真-10② 長老沢(胡桃平)地区、
渡辺清治さん旧宅付近から米沢側を
望む。



参考写真-4 八重桜と渡辺清治さん旧宅 H270504



写真-10③ 渡辺清治さん旧宅



写真-10④ 旧中屋旅館(渡辺家)付近から福島側
渡辺清治さん旧宅を望む。



写真-10⑤ せとの沢、上流側を望む。



写真-11① せとの沢(渡辺清治さん旧宅)付近から
米沢側を望む。



写真－11② 旧中屋旅館(渡辺正義さん旧宅)。
明治天皇御小休所(M14.10.3)、
福島側から望む。



写真－11③ 旧中屋旅館、福島側から望む。



写真－11④ 旧中屋旅館、米沢側から望む。



写真－11⑤ 昭和10年11月史蹟指定石碑(S18.11
建立)。左側の石碑「鳳駕駐蹕之蹟
(M41.9.12 建立)は雪の中。



参考写真－5 右側、昭和10年11月史蹟指定石碑。
左側の石碑「鳳駕駐蹕之蹟(M41.9.12
建立)H281009



写真－11⑥ 旧宮内屋旅館跡(高野英治さん宅跡)
から福島側を望む。



参考写真－6 旧中屋旅館(渡辺家) H270504



写真－11⑦ 旧中屋旅館(渡辺家)付近から米沢側を
望む。
写真奥左側、渡辺角右エ門さん宅跡。



写真－11⑧ 旧宮内屋旅館跡(高野英治さん宅跡)を
望む。



写真－12① 小川河原(南側)から旧中屋旅館を
望む。



写真－12② 渡辺家前小川、上流側を望む。



写真－12③ テレビ局取材風景



写真－12④ テレビ局取材風景

（旧西川橋付近）

長老沢地区の内、人家集落のなかった旧西川橋付近についてはここに示す。



写真－13① 長老沢地区(旧西川橋付近)、
旧宮内屋旅館(高野家)跡から先(米沢側)
の物置跡付近から米沢側を望む。



写真－13② 物置跡付近から福島側を望む。
右側は、渡辺角右エ門さん宅跡。



写真－13③ 旧国道 13 号から現国道 13 号 3 代目
西川橋(L=98.8m、S39.9 完、
標高 400m)を望む。



写真－13④ 旧西川橋(2 代目、T2 完成)L=8.2m、
w=4.5m)。米沢側(石小屋地区)を
望む。写真奥の左側が旧万世大路
(旧国道 13 号)。



写真－13⑤ 旧西川橋、下流左岸側から氷柱を望む。



写真－13⑥ 旧西川橋右岸(米沢側)から米沢側(石小屋地区)を望む。



写真－13⑦ E13 東北中央自動車道、4代目新西川橋(L=77m、H20.10完)、旧西川橋付近から望む。
下の道は蛇体道。



写真－13⑧ 旧西川橋左岸付近から福島側を望む。

おわりに

冬期以外の大滝集落の状況についてはおりに触れて報告しているところであるが、その主なものを下記に示したので興味をもたれる向きには参照願います。上記写真帳では、雪の無い時期との比較は最小限に留めている。

【大滝集落の状況】

- 『大滝集落に架かる橋』参考資料（解説）（平成 24 年 6 月）
<http://ootaki.xsrv.jp/hasisankou.html>
- 『平成 24 年晩秋の大滝集落』（平成 24 年 11 月）
<http://ootaki.xsrv.jp/irori.html>
- 『平成 27 年大滝会総会ならびに観桜会開催』報告（平成 27 年 5 月）
<http://ootaki.xsrv.jp/27kanoukai.html>
- 『平成 29 年大滝会芋煮会・秋の大滝現況』（平成 29 年 11 月）
<http://ootaki.xsrv.jp/h29imonikai.html>

なお、集落内橋梁関係については最新の情報により説明書きを今回修正しているので留意されたい。この中で特に旧西川橋については、旧道には珍しくメタル（鋼橋）であったことから東栗子トンネル工事の際に工事用道路（運搬路）として架け替えられたのではないかとの仮説を提示していた。しかし、新資料（福島河川国道事務所資料）によれば大正12年（1923年）I型鋼桁に架け替えられていたようである。確かに今考えて見れば、大滝の方々どなたに伺っても物心ついた頃から高欄のない現在の状態であると仰っておられた。また、当時の栗子国道改築工事（S36.10～S41.5）関係者にお尋ねしても誰一人として架換工事をおこなったというご記憶はないようであった。このことからやはり既に架換されていたものと思料される。

今回も大滝会HP管理人紺野文英様には写真編集、説明書きの監修等で大変お世話になりました。文末ですが心から感謝申し上げます。

次頁に巻末参考資料1添付

《巻末参考資料-1》

大滝集落について

大滝集落は、明治 10 年頃万世大路の工事基地（宿舎など）として始まり、明治 14 年（1881 年）10 月の開通後は宿駅として栄えたが、明治 32 年 5 月の南奥羽鉄道（福島～米沢間、現奥羽本線）の開通に伴い衰退した。その後林産業などで定着し、最盛期（昭和 10 年 1 月）には 43 世帯 266 人を数えたけれども、昭和 51 年 9 月現在 7 世帯 34 人となった。大滝部落は、昭和 53 年（1978 年）10 月閉郷し廃村となった（S54.5 最後の一人離村）。

明治天皇は、万世大路開通式（M14. 10. 3）ご出席の後福島へ向かう途中大滝の長老沢地区旧中屋旅館（渡辺家）で御小休された。現在でも当時の家屋が残されておりその記念碑「鳳駕駐蹕之蹟（ほうがちゅうひつのせき）」（明治 41 年 9 月 12 日建立）がある。また、昭和 10 年 11 月には文部省史跡に指定されている（昭和 18 年 11 月に記念の石碑が建立され明治期石碑と併設）。

大滝集落内の旧国道 13 号は、現在市道長老沢線となっている。

なお、旧住民の方が「大滝会」（昭和 54 年 10 月設立、木村義吉会長、会員約 120 名）を組織し、旧大滝地区の環境の整備、氏神大滝山神社の管理などをおこなっている。また大滝会は、沿線に点在する史蹟の発掘と保存を計ることを目的の一つとしている。

大滝（集落）について詳しく知りたい方は、次のサイトをご覧ください（当大滝会 HP）。

<http://ootaki.xsrv.jp/wagaootaki.pdf> （「わが大滝の記録（PDF 版）」）

また、要約版として次のサイトがあります（当大滝会 HP）。

<http://ootaki.xsrv.jp/130nenFormmemo.pdf>

（「『万世大路開通 130 周年記念フォーラム』パネルディスカッションメモ」、4 頁）

【参考大滝記念碑】

その廃郷時に大滝の皆様は、100 年の歴史を刻んだ記念碑を建立した。そこには、万世大路と共に歩まれた大滝集落の歴史が簡潔にまとめられているので参考までに下記に紹介しておく。

【碑本文】

「大滝は明治十年万世大路の建設基地として生まれた。万世大路は同十四年秋完成、秋あたかも東北、北海道ご巡幸中の明治天皇のご行列によって通り始めが行われ、開通後は人馬の往来が激しく、大滝は難所栗子峠を控えた重要な宿場街として栄えた。しかし、同三十二年国鉄奥羽線の開通により客足は途絶え、二十年足らずで宿場街は終わる。以来明治・大正・昭和の三代を山懐に抱かれた平和な山村として過ごした。統計によると昭和十年の人口は二六六人、四三世帯に達し、この頃が大滝の最盛期であった。

第二次世界大戦後、日本経済が高度成長を続けていた昭和四十年頃より、大滝は都市との経済格差が拡大し、更に国道の大改修で路線からも外れ、次いで興ったエネルギー革命により、主産業であった木炭の需要を失って毎年離郷者が相次ぎ、昭和五十四年を最後に開郷百二年の歴史を閉づるに至る。

かつて明治天皇が御駕籠を休められたゆかりの里、大自然の中に祖父子三代かけて築き上げた大滝文化も今は昔の語り草、人去って青山有り、出身者一同万感の想いをこめてこ

ここに記念の碑を遺さんとするものなり。

「此処かしこ 分れて棲むも 大湊喜能さと」

(ここかしこ わかれてすむも おおたきのさと)

[※石碑の和歌(草書体)は紺野健吉大湊会前会長の揮毫]

(昭和 54 年(1979) 10 月 4 日、「大湊記念碑除幕式並びに物故者合同慰霊祭」資料より。
原文とおり。)

次頁に巻末参考資料2添付

《巻末参考資料-2》

大滝集落内道路(万世大路)の変遷概要

以下簡単に大滝集落内の道路（万世大路）の変遷について関連分をも含めて紹介しておく。

（詳細については拙著『万世大路読本』（ネット著書）を参照されたい。

<http://ootaki.xsrv.jp/banseiojidokuhon.html> 34 頁)

- 1881 年（明治 14 年）10 月 3 日 栗子新道（のち万世大路）開通する（L=48.3 km）
起点：福島県信夫郡福島町 11 丁目 元標 （現在福島市上町）
終点：山形県南置賜郡米沢今町相生橋左岸 （現在米沢市相生町）
工事期間：明治 9 年（1876 年）11 月～明治 14 年（1881 年）9 月 （4 年 11 ヶ月間）
（福島県側：中野新道 L=29.8 km M10.7～M14.9、
山形県側：刈安新道 L=18.5 km：M9.11～M14.9）
* 福島県側の中野新道と山形県側の刈安新道は工事終了後併せて「栗子新道」と称し、後日明治天皇から「万世大路」の名称を賜う。
- 1881 年（明治 14 年）11 月 栗子新道、国道 3 等に仮定（太政官公達）。
- 1882 年（明治 15 年）1 月 21 日 栗子新道（後の万世大路）が「羽州街道」本道となる（従来は七ヶ宿街道経由）。
- 1882 年（明治 15 年）2 月 8 日（2 月 9 日）明治天皇から「万世大路」の名称を賜う。
（以降栗子新道（羽州街道）は万世大路と称され現在に至る）
- 1885 年（明治 18 年）2 月 24 日 万世大路、国道 39 号（東京～山形）の一部に認定される。
（この時初めて国道に路線番号が付された。）
- 1920 年（大正 9 年）4 月 1 日国道 5 号（東京～青森）となる。
（国道 39 号から名称変更）。
- 1937 年（昭和 12 年）3 月 31 日 昭和期 2 代目万世大路、「昭和の大改修」竣功（完成）する。
（工事期間：昭和 8 年 4 月～昭和 12 年 3 月）
- 1937 年（昭和 12 年）5 月 10 日 昭和期 2 代目万世大路、一般交通供用開始
- 1952 年（昭和 27 年）12 月 4 日 国道 5 号から名称変更になり「1 級国道 13 号」となる。
（起点は、旧国道 5 号の分岐点であった福島市本町交差点（旧福ビル角）となる。終点は秋田市。）
- 1953 年（昭和 28 年）7 月 7 日 福島市内平和通りが国道 4 号となる（区域変更）。
（それに伴いこの時、国道 13 号の起点（旧国道 5 号分岐点）が旧福ビル角から平和通り本町交差点（旧富士銀行角）に移行。）
- 1965 年（昭和 40 年）4 月 1 日 「1 級国道 13 号」は「一般国道 13 号」となる。
- 1966 年（昭和 41 年）5 月 29 日 現国道 13 号栗子国道（栗子ハイウェイ）開通する。
（福島市飯坂町中野字 𪛗石（瀬沼）～米沢市万世町刈安字川越石 L=20.1km）
工事期間：昭和 36 年（1961 年）10 月～昭和 41 年（1966 年）5 月 （4 年 8 ヶ月）
（舗装工事完成、昭和 41 年 12 月）
- 1970 年（昭和 45 年）4 月 8 日 国道 13 号信夫山バイパス開通する（下り線）。

(開通区間は福島市森合町(^{はらいがわ}祓川)～福島市飯坂町平野^{ひらの} L=5.7km)

「栗子国道」(栗子ハイウェイ)が完成し、福島～米沢間の新しい国道が繋がる。

(福島市飯坂町平野～福島市飯坂町中野字^{まないたし}俎石(瀬沼) L=4.7 km分は、1968 年(昭和 43 年) 1 月 9 日に開通済み。)

- 1973 年(昭和 48 年) 4 月 17 日 国道 13 号の起点が移動(バック)する。

国道 13 号の起点は、平和通り終点の国道 4 号との分岐点本町交差点(旧富士銀行角)にあったが、国道 4 号の区域変更(福島南バイパスの供用開始)に伴い平和通りが国道 13 号となり舟場町交差点(平和通り起点)に移動(バック)することとなった(現万世大路起点)。

- 2016 年(平成 28 年) 9 月 11 日

東北中央自動車道(福島 JCT～福島大笹生 IC、L=1.46 km) 開通

- 2017 年(平成 29 年) 11 月 4 日

E13 東北中央自動車道(福島大笹生 IC～米沢北 IC、L=35.6 km) 開通

完